

東日本大震災 ~あれから10年 首都直下型地震に備える~

東日本大震災の発生から、3月11日で10年が経ちます。

この震災は、東北地方を中心に甚大な被害をもたらし、1万5,000人を超える尊い人命が失われ、現在も4万1,000人を超える方々が避難生活を送っています。

東日本大震災発生以降、熊本地震や大阪府北部地震、北海道胆振東部地震などの大きな地震が次々と発生しました。また、2月13日には、福島県沖を震源とする東日本大震災の余震が発生し、福島県

や宮城県では最大震度6強、本市でも震度4を観測しました。

首都圏では、マグニチュード7クラスの首都直下型地震が発生すると予測され、本市においても最大震度6強の揺れが想定されています。

地震はいつ発生するかわかりません。被害を最小限に抑えるためにも、日頃からの備えが大切です。

問危機管理防災課 ☎③05

首都直下型地震が発生した場合の埼玉県における被害想定

平成24・25年度埼玉県地震被害想定調査における東京湾北部地震の被害想定 ※一番被害が大きいとされる、冬の午後6時、風速毎秒8メートルのケース

電気	電話	水道	都市ガス	下水道
約5万3,000世帯が停電 復旧予測6日	約3,200回線が不通 復旧予測14日	約55万人に断水の影響 復旧予測30日	約77万5,000件が供給停止 復旧予測55日	約109万人に機能支障 復旧予測30日

日頃の備え

各家庭で水や食料を備蓄する場合は、7日分、最低でも3日分の生活の備えをしておきましょう。

また、災害時には冷蔵庫・冷凍庫にある傷みやすいものから食べ、非常食はその後に食べるようにしましょう。

1 水・食料などの備蓄

●水 1人1日3リットル必要



●食料品



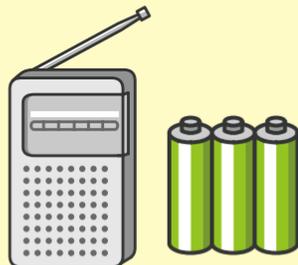
米(レトルト、アルファ米など)、ビスケット類、インスタント食品類、缶詰、粉ミルク、離乳食など

ローリングストック



非常食にも使える食品(レトルト食品や缶詰など)を買い置きし、普段の食事の中で定期的に食べ、その分を買い足す備蓄方法

●携帯ラジオ、電池



●卓上コンロ、カセットボンベ

食品を温めるなどの調理ができ、食べられる食材の幅が広がります。



●災害用トイレ



使うコツ
便器にゴミ袋を被せ、その上から携帯トイレを設置。携帯トイレだけを交換すれば、水が床に落ちません。

●LEDランタン・懐中電灯、マッチ・ライター・ロウソクなど



LEDランタンは部屋数分

避難の際に携帯するもの

- ・衣類・日用品(下着、紙おむつ、タオル、生理用品、携帯トイレ)、毛布、マスク、手指消毒液、除菌ウェットティッシュなど
- ・貴重品(現金、預金通帳、健康保険証など)



市の人口と世帯数



人口…92,512人(+11人)
世帯…44,288世帯(+20世帯)

男…48,026人(-8人)
令和3年(2021年)2月1日現在

女…44,486人(+19人)